

第 74 回紫友まち歩き

目黒・代官山

日時 平成 29 年 2 月 25 日 (土) 13 : 50

皆様の心がけが良く天気は快晴、J R 目黒駅西口に何と時間前に全員揃いました。

参加者は、倉林案内人 以下 19 名でした。



駅前から目黒通りを渡って行人坂へ歩き、最初の目的地「大円寺」へ。



大円寺境内だが行人坂に向かって開けている「目黒川架橋 (1704) 供養勢至菩薩石像」

“行人”とは寺の世俗的・実務的業務に当たる僧侶で、昔の僧兵も行人である。



山門

松林山大円寺へ 天台宗 本尊は釈迦如来なのに「江戸城裏鬼門守護 開運出世 大黒天」が表看板。通称：大黒寺。毘沙門天・弁財天と合体した“三面大黒天”

【松林山大円寺】



江戸の初期、湯殿山の行人：大海法印が建てた大日如来堂がはじめと伝えられる。振袖火事 (明暦 3 年 1657)・車町火事 (文化 3 年 1806) と並んで江戸の三大大火の一つである行人坂火事 (明和 9 年 1772) は、大円寺が火元と言われ、白金から神田・湯島・下谷・浅草までを焼き尽くす大火 (死者 1 万 8 千人) となった。大円寺は以後 76 年もの間再建が許されなかった。境内左手の崖沿いに 500 体を超える石仏があるが、これらは大火の犠牲者供養のために 50 年の歳月をかけて石工が完成させたものと言われている。



大円寺石仏群

釈迦三尊像 (釈迦・文殊・普賢)・十大弟子・十六羅漢+491 基の羅漢像：合計 520 体



大円寺本尊「生身^{しやうじん}釈迦如来立像」と仏足石
 ご本尊は「重要文化財」に指定されているが、「旧
 国宝」とも記されている。国宝指定って解除され
 るものなんですかねと話が弾む。御開帳は正月松
 の内・4/8 花まつりと縁日なので今日は外から参拝、
 仏足石を撫でて来た。“生身”とは仏像ではなく“釈
 迦の肉体”と言う意味で、ご本尊は等身大の寄木
 造で胎内に五臓六腑が収められている。



大円寺本堂

三大財天の大黒・毘沙門・弁天が三位一体となっ
 た三面大黒はご利益が大きく参詣者が絶えない。
 八百屋お七の恋人吉三（吉三は創作上の名前であ
 り本名は生田庄之介）は出家し“西運”となって大円
 寺下の明王院に身を寄せ、念仏堂建立とお七の菩
 提を弔うため、目黒不動と浅草観音に一万日日参
 の願掛けをして、
 27年後に念仏堂を建立したと言う。

ちなみに、八百屋お七は天和の大火（1683：火元
 は駒込の大円寺）で焼け出され、本郷の正仙院（創
 作上は駒込吉祥寺）に避難し寺小姓に恋をし再び
 会いたい一心で自宅に放火（ボヤ）して処刑され
 たのである。

明王院は明治になって廃寺となり、明王院の仏像
 などは大円寺に移された。

そんなこともあって、大円寺には“八百屋お七・
 吉三の碑”というものがあって縁結びのご利益が
 あると言われている。



具合の悪い所に金箔を貼って願掛けするとご利益
 があると言う薬師如来像



山門脇のお地藏様



西運が建立した明王院 五百羅漢寺入口の阿弥
 陀堂があった場所 開基松雲禅師像
 に建つ「目黒雅叙園」

参道を進むと「目黒不動尊」に至る。



天台宗 泰叡山瀧泉寺：目黒不動尊 山門
 “目黒”の地名の由来ともなった江戸五色不動の
 一つ。本尊は五大明王（不動・降三世・軍荼利・

大威徳・金剛夜叉)の中心

「不動明王」である。大日如来の化身で、今年
の干支、酉年の守り本尊である。

・江戸五色不動尊

- 目黒 瀧泉寺 天台宗 目黒区下目黒
- 目青 教学院 天台宗 世田谷区太子堂
- 目赤 南谷寺 天台宗 文京区本駒込
- 目黄 永久寺 天台宗 台東区三ノ輪
- 目黄 最勝寺 天台宗 江戸川区平井
- 目白 金乗院 真言宗 豊島区高田

・江戸三大不動尊

- 目黒不動、目白不動、薬研堀不動(東日本橋)

・日本三大不動尊

- 目黒不動、木原不動(熊本市)、成田不動(成田)

【泰叡山瀧泉寺】

天台座主三祖慈覚大師円仁(下野国生れ)が大同3年(808)比叡山に向かう途中、目黒で宿を取ったその晩、不動明王の夢を見たので、その像を彫り安置したのがこの寺の始まりと目黒不動尊縁起にある。大師が法具“独鈷”を投じて堂宇造営の地を卜されたところ、泉が忽ち湧出し涸れることのない瀧泉は「独鈷の瀧」と称された。寺号は慈覚大師が堂宇造営に際し記した「大聖不動明王心身安養祝願成就瀧泉長久」に因んで“瀧泉寺”と称し、山号は清和天皇の勅額「泰叡」から“泰叡山”と号する。



独鈷の瀧

独鈷の瀧は不動行者の水垢離場となった。ここに身代りに瀧に打たれてくださる「水かけ不動明王」が造立され、より清らかな心と身で目黒のお不動様に参詣できることになったとある。



水かけ不動明王に柄杓で水をかけてお参りした。大阪の水かけ不動さんは全身苔で緑色だったが、ここのは新しいのかしら？



鈴懸の木



本堂に至る男坂



目黒不動尊本堂

大きく立派な建物の縁を廻って裏手に出た。



本堂裏手に座す銅造大日如来坐像



青木昆陽の墓

目黒不動尊本堂の裏手に墓地がありその一画に薩摩芋の先生で知られる青木昆陽の墓がある。墓石の「甘藷先生墓」の文字は自ら書いたと言われている。



「甘藷先生墓」確りした楷書体で書かれており、薩摩芋が備えられていた。

青木昆陽は、元禄 11 年（1698）日本橋に生まれ、

大岡忠相の知遇を得て幕府に仕え、八代将軍吉宗の命により蘭学を学び、救荒作物として甘藷の栽培を奨励した。明和 6 年（1769）目黒にて没、72 歳。

【大鳥神社】

目黒通りへ戻り山手通りとの交差点にある大鳥神社へ！



大鳥神社大鳥居

本殿は補修工事中で足場に覆われている。大鳥神社は大同元年(806)に創建されたと伝わる。古江戸九社の一社として目黒村の総鎮守とされた。祭神は日本武尊を主神としている。日本武尊が白鳥になって故郷に帰ったことに因み名付けられたもので「鳥明神」とも呼ばれている。ご神体は日本武尊が^{くにとこたちのみこと}国常立命に奉納したと云う^{あめのむらくものつるぎ とつかのつるぎ}「天武雲剣（十握剣）」である。11 月には“酉の市”で賑わうが、酉の市は日本武尊の熊襲征伐の出発日が酉の日であったことに因むものと言われている。因みに、“酉の日精進(市)”は埼玉県久喜市の「鷲神社」が起源とされ、江戸の酉の市発祥の地は足立区花畑の「大鷲神社」で「本酉」と言われている。



都天然記念物：オオカガガシの碑

2002 年枯渇し 2012 年天然記念物指定解除



切支丹灯籠

肥前島原藩主松平主殿守下屋敷に祀られ、密かに信仰されていたもの伝えられる。竿石の下部に刻まれた像には足の表現が無く、イエス像を仏像形式に偽装した珍しい型のキリシタン灯籠で、弾圧と迫害が厳しくなった寛永・正保・慶安から江戸中期に作られたものと考えられる。...と看板にある。



目黒通りを東に進み、新橋の交差点を渡らず左折して目黒川沿いを目黒方面に歩く。

【目黒川】

目黒川は、北沢用水と烏山用水の合流点を起点とし、現在は大橋辺りまで暗渠となっている。大橋から南東に流れ品川区天王洲で東京湾に注ぐ河川である。この辺り武蔵野台地と目黒川の谷底平野が形成する崖線となっている。



桜にはまだまだ早い目黒川

目黒川の河口付近は「品川」と言い、湾岸開発が進む以前は河口付近で流れが湾曲していて流れが緩やかであったため、港として使われ“品”の行き交っていた“川”であった。これが「品川」の起りとされる。

なお、江戸時代の絵図などでは、その上流の下目黒付近では「ことほり川」と記され、江戸時代に目黒川と記した絵図はない。「ことほり」は「垢離取り」の意味でこの川で身を清めてから、目黒不動に詣でた。



目黒川の船着き場：さいかち橋手前



海鷗 と 白鷺



日向ぼっこする鴨と亀

ここで目黒川を離れ山手通りに戻る。



山手通りとの境には舳い杭があり、ここが船着き場だったことがわかる。

中目黒まで行かず、駒沢通りを右折して代官山方向に進む。旧山手通りに出て東急東横線を渡ったすぐ左側に本日の目的の一つである「旧朝倉邸」がある。門限の16時には多少余裕をもって到着した。

【旧朝倉邸】



旧朝倉邸は“重要文化財”に指定され文部科学省所有渋谷区管理で、入場料100円は60歳以上は無料だが、100円払おうとするものもいる。60歳未満で、いたかな...?



旧朝倉邸 正面玄関

東京一と言われた米穀商で政治家（東京府議会議長・渋谷区議会議長）の朝倉虎次郎が大正7年に築いた総檜造りの和風2階建て住宅である。西南

角にあって南側の庭園に張り出した「杉の間（数寄屋座敷）」は政治家達の接客に使われた。戦後は農林省が買い上げ中央官庁渋谷会議所として利用していたが、現在は渋谷区が管理している。



東面（玄関がある面）

敷地(5,420㎡)北側に母屋：木造2階建、瓦屋根、外壁下見板張一部漆喰塗、ほぼ全室畳敷き、建築面積：574㎡



南面



左側 庭に突き出た所が「杉の間」



杉の間の「濡れ縁（切れ目縁）」



南庭の石灯籠

菊の紋と桐の紋が2面に跨る意匠は面白い



南側の庭は回遊式庭園となっており南の端は目黒川の崖線の上に位置し眼下に目黒川渓谷を見下ろす絶景だったことが偲ばれる。現在も少しだけ目黒川が見えるが河川工事中で見苦しい。



南側に15畳の座敷が3間続きの部屋は、違い棚・床の間・付け書院・格天井の本格的な和室。ここで違い棚を見ながら、「筆返し」や「几帳面」の蘊蓄^{うんちく}を聞く。



2階縁甲板張りの廊下：樽縁^{くればん}

因みに、建物内（下屋の内）にある縁側を“樽縁”^{くればん}と言ひ板は敷居と並行に張る。屋外側に雨戸とガラス戸、部屋側に明り障子が設けられる。建物の外（軒下）にある縁側を“濡れ縁”と言ひ板は通常敷居と直角に雨水が貯まらないように少し隙間を開けて張る。これを“切れ目縁”と言う。



和室



洋室（応接間）



旧朝倉邸の係の人に写真を撮ってもらう。

【代官山】



代官山ヒルサイドテラス

代官山発展の軸になった「代官山集合住宅計画」の第1期建物。朝倉家の土地開発。
ヒルサイドテラスは昭和44年から7期に分けて順次建設され、平成10年に完成した。住宅や店舗を組合わせた集合住宅のパイオニアとして注目を集めた。設計者は榎文彦氏。榎氏はシンプルな雰囲気を守るため看板を禁止し、建物と都市（建築と街）が入り組んだ魅力的な場所を作り出している。近代建築の初々しさを魅せる“世界標準の建築”である。



旧山手通り反対側



ヒルサイドテラス内「猿楽塚」に参拝

こんもりした築山は6~7世紀の円墳で、この塚の名前が町名の起源で、この古墳の間を初期の鎌倉街道が目黒川に下っていた。

代官山の地名の由来は不明だが、江戸時代に代官屋敷があったからとか、代官が管理する山林があったからとか言われている。



代官山でスフィンクスに会う



エジプト大使館

ここ代官山は大使館が沢山あって、大使館ツアーも組める程である。旧山手通りに面しているだけでも、デンマーク・エジプト・マレーシアの大使館がある。



西郷山公園：目黒区青葉台



西郷山公園の丘上に1本だけの河津桜

江戸時代は豊後岡藩竹田城主中川家の抱え屋敷があり、明治維新後“西郷従道”が青葉台から南平台・鉢山町にかけての土地6haを買い入れ居住地としたことから、世間ではこれを“西郷山”と呼んだ。西郷山公園に隣接する菅刈公園にはフランス人技師レスカスによる洋館（重要文化財：明治村に移築）と書院造りの和館（戦災で焼失）があった。



旧山手通り沿いレストラン「マダム・トキ」ウェディングもできる。ロールスロイスが駐車していた。



旧山手通りから南平台に入った所の豪邸
表札に「UCHIDA YUHYA ,KEIKO
KIKI KIRIN」とある。



道端の猫



EMBASSY OF THE UNITED ARAB EMIRATES



「清流初つぼみ渋谷店」で打ち上げ